

## 花曇りの向こう

① 「なんや、また気が重そうな顔して。」  
朝食にみそ汁やら焼き鮭やらを並べながらばあちゃんが言った。

1 「胃が痛いんだ。」とおなかを押さえて答える僕に、「そこ、胃じゃなくて腸や。」  
とばあちゃんが笑った。

小学校卒業と同時に、僕はばあちゃんの家に引っこしてきた。転勤が多い父さんは新しい住まいを探すのはもつたいないと、ばあちゃんの家での同居となったのだ。父さんもパートで働く母さんも朝早くから仕事に出てしまうから、朝ご飯から夕方まではばあちゃんと二人だ。

「転校なんて、明生、慣れたもんやろ。それに今回は中学入学と同時になんやし、ちよちよいのちよいや。」

「中学入学って言ったって、だいたいみんな小学校からの仲間なんだ。簡単にいくわけないだろ。」

「そんな言うたら、ばあちゃんなんか、こないだパッチワークの展覧会を乗り切ったと思ったら、再来週にはフラダンスの発表会や。次々と困難がやって来る。」

ばあちゃんはその言うのと、勢いよくみそ汁を飲んだ。  
小学校で二回、それに今回。僕は通算三回も転校をしている。「父さんの仕事の都合」、それだけの理由で、遊び慣れた場所とも気が合う仲間とも、あつさりさよならだ。僕ら子供は、意思と関係なく無理難題をふっかけられる。好き勝手にやっているフラダンスやパッチワークといっしょにされちゃ困る。

「いつまでもぼそぼそ食べてんと、おなか痛いんやったら、梅干し食べとき。」  
ばあちゃん僕は僕の皿に梅干しを乗つけると、片づけのために立ち上がった。捻挫に頭痛に腹痛。ばあちゃんは何でも梅干しでよくなると思っている。

② 「おはよ。」とつぶやきながら教室に入ると、同じようなぼそりとした反応が返ってくる。中学生生活が始まって三週間。僕にはまだ友達といえるものはできていない。小学校のときはもう少し簡単だったはずなのに、なかなかうまくいかない。

「今日も曇りやな。じいちゃんが花曇りって言ってたけど、四月は意外と天気悪い日が多いねん。」

座席に着くと、となりの川口君が声をかけてきた。川口君は毎朝、先生が来るまでの間話しかけてくる。けれど、それはいつだつてうまくつながらない。  
それで会話は終了。川口君も僕もさつきより空気を持て余して、窓の外を見つめるしかなくなってしまう。

「これで桜が全部散ってしまふな。」と言えばよかつたとか、「花曇りって何。」とさきけばよかつたとか。思いつくのは後になってからだ。晴れることを放棄したようなぼやけた空に、僕は今日も生ぬるい息をはいた。

③ 「こつちこつち、パス。」  
「こつちこつち、パス。」

か細い雨が降っているせいで、今日の体育はバスケットボールだった。まだなじんでない仲間とのチーム競技は、なかなかやつかいだ。だけど、僕はバスケットは得意だった。今日はなんとかなるかもしれない。僕は俊敏に体を動かした。敵のボールをカットすると、わつと歓声が起こった。チャンスだ。はやる気持ちを抑えて、

ドリブルしながら辺りをうかがう。ゴール下にはみんながあふれているけど、左に  
いボールを送った。いいパスだったはずだ。ところが、山崎君の手に当たって、ボ  
ールはぼとりと落ちた。今日もわずかなとつかかりはするりと抜け落ちていった。

④

「いいねえ、子供は。ぼんやりしとつても、やる事が転がってくるんやから。」  
明日の野外学習用に向けてお菓子を買ってお金をくれるようにたのむと、ぼあちや  
んはうらめしそうに言った。

「別に行きたくないけど……」  
僕はぼあちやんがくれた小銭を手にしてつぶやいた。

「お菓子買に行こうや。」  
「駅前新しくできたスーパードル。あそこなら安いし。」  
今日の放課後、何人かの男子で盛り上がっていた。「僕も行こうかな。」そう言

うすき間はいくつかあって、間もあつた。でも、声は出なかつた。入学式から何度  
かのきつかけをやり過ぎていく中で、ハードルは高くなるばかりだった。

「いってらっしゃい、気をつけてな。」  
「ぼあちやんは「大人は待ってても何もやって来てくれんから、探さんとあかん  
わ。次は何しようかな。」と地域の文化教室のお知らせを見ながら僕を見送った。

スーパードルにはみんながいるかもしれないから、僕は反対方向の小さな駄菓  
子屋に向かった。「いらつしやい。」と眼鏡をかけたおじいさんがかすれた声で言  
うのに、「どうも。」と軽く頭を下げながら、お菓子を探す。この期におよんで、

みんなと交換しやすい物がいいな、なんて考えてしまふ自分が情けない。

「ここにも売ってるんだ。」

いくつかお菓子をかごに入れた僕は、なつかしいパッケージを見つけて手に取った。  
昔よく食べたかたい梅干しのお菓子。父さんが好きだったせいで、僕はうち園の  
ころから気に入って食べては、すっぱいのにと周りをおどろかせていた。でも、こ  
れじゃだれも欲しがらないよな。そう思つて棚にもどそうとすると、

「お、俺もそれ買おうと思つてん。」  
と声が聞こえた。毎朝聞いている声だ。振り返ると、川口君がいた。

「宮下君も、梅干しのお菓子、好きなんや。」  
と聞かれて、僕は「すっぱいけどね。」とうなずいた。

「せやねん。すっぱいのに俺はじいちゃんが好きやから、しよつちゅう食べてる。」  
「僕も小さいころから食べてた。」

「うん。そう。」

「そっか。」  
教室の外で会つたつて、相変わらず僕らの会話はたどたどしい。

「……えつと、明日の野外学習にこれ、持って行こうかな。」

僕がとどこおりそんな空気をふつ切るように、お菓子をかごに入れると、

「ああ、俺も。つかれたとき、梅干し食べるとええつて言うし。」

と川口君も手に取つた。  
川口君と僕はいつもの同じようにぎこちない。ついでに、店を  
出ると最近続いているぼんやりとした花曇りだ。でも、僕が手に提げた小さなふく  
ろの中にはあまずつぱい梅干しがちやんと入っている。

# 一年国語一学期中間考査

組 番 氏名

問一 「花曇りの向こう」について次の問題に答えなさい。(20点満点)

(1) この物語の設定を整理した次の表の空所A B Cをうめなさい。(1点×3)

場	時	所	人
①	朝	ばあちゃんの家	明生・ばあちゃん
②	朝	教室	A)
③	体育の時間	B)	明生・山崎君
④	C)	駄菓子屋	明生・ばあちゃん・川口君 駄菓子屋のおじいさん

(2) — 線1の「僕」の言葉から読み取れることはどんなことですか。(2点)

(3) ②の部分から、明生の気持ちを表している情景描写を十八字で探し、その部分の初めの五字を抜き書きしなさい。(2点)

-----

-----

-----

-----

(4) — 線2とあるが、もしこの時にパスが成功していたならば、その後どんな展開になることが期待できますか。(2点)

(5) — 線3とあるが、どんな言葉が出なかったのですか。文章中から書きぬきなさい。(2点)

(6) — 線4とあるが、明生が駄菓子屋に向かった理由として、最も適切なものを次から選び記号で答えなさい。(2点)

- ア、好きなものをゆつくり選ぶのは一人のほうがいいから
- イ、スーパ―より駄菓子屋のほうが安いから
- ウ、みんなと行くとうるさくなって疲れるから
- エ、スーパ―でみんなと顔を合わせたくないから



(7) — 線5とあるが、明生がこう考えた理由を「勇気」「期待」という二つの語を必ず使って答えなさい。(3点)

(8) — 線6とどこ「おる」を使って、三十字以内で短文を作りなさい。(2点)


(9) この物語の題名である「花曇りの向こう」には、どんな意味が込められていますか。(2点)

## 問二 次の問題にそれぞれ答えなさい

(17点満点)

(1) 次の事項から古い方を選びそれぞれ記号で答えなさい。(完答2点)

A	ア、訓読み	イ、音読み
B	ア、会意文字	イ、象形文字
C	ア、ひらがな	イ、漢字


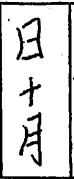





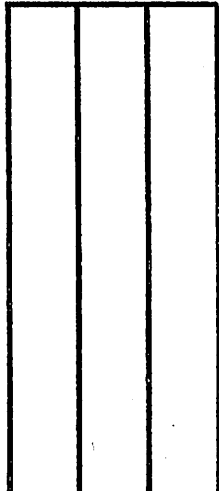
(2) 「六書」の読み方を答えなさい。(1点)

--

(3) 次の文字は現在のどんな字ですか。またその文字を何と呼びますか。例にならって漢字で答えなさい。(完答1点×3)

現在の字

文字名

F	E	D	例
			
			山
			象形文字

(4) 次の説明の空所を漢字でうめなさい。(1点×2)

漢字の中で、音を示す部分と意味をしめす部分の組み合わせによって成り立って

いるものを

G	
---	--

文字と呼ぶ。その漢字の、音をしめす部分のことを

音符と呼び、意味を示す部分のことを

H	
---	--

と呼ぶ。

(5) 例にならって、「コウ」と音読みする漢字を十個書きなさい。(3点満点)

例1	例2									
交	工									

(6) 漢字の音読みは必ず一音か二音になるが、二音の場合、二音目の音は七つしかない。その七つの音をすべて答えなさい。(完答1点)

--	--	--	--	--	--	--	--

(7) 次の( )の読み方の中から訓読みであるものを3つ答えなさい。(完答1点)

ア、王(おう)      イ、星(ほし)      ウ、熱(ねつ)

エ、食(しょく)      オ、宝(たから)      カ、首(くび)

--	--	--

(8) 音符を知識を活用して、次の三つの熟語の読み方を答えなさい。(完答2点)

過去( )

( )

禍福( )

( )

渦動( )

( )

(9) 漢和辞典には索引が三つある。一つは「部首索引」であるが、あとの二つの索引名を漢字で答えなさい。(1点×2)

索引

索引

### 問三 次の

線部の読み方を答えなさい

(1点×8)

- (1) 皆の歓声が聞こえる。
- (2) 手に提げて歩く。
- (3) 毎日押印する。
- (4) 今日は曇天だ。
- (5) 抑揚をつけて話す。
- (6) 悪癖を直したい。
- (7) 早起きを勧める。
- (8) 華美な服装。

8	7	6	5	4	3	2	1

問四 次のカタカナ部を漢字に直して楷書(ていねいな字)で書きなさい (1点×5)

(1) ザンシンな企画を考えた。


(2) せみのぬけガラ。

--

(3) 相手にせつない気持ちをウツタえる。

--

(4) 一生ケンメイに取り組む。


(5) いそがしくて体がヒロウしている。
